



春の訪れとともに 町並みを彩る

～たけはら町並み雛めぐり～

2月9日～3月20日、町並み保存地区で、たけはら町並み雛めぐりが開催されました。

町並み保存地区内の施設や店舗に、竹原の商家ゆかりの雛人形や、江戸から平成までの雛人形が登場。期間中、かぐや姫の町並みガイドや、笠井邸での雛めぐりコンサートなど、様々なイベントが行われました。

3月3日の雛祭りには、町並み保存地区周辺で、華やかな着物で身を包んだ女性や、子ども達の姿が多く見られました。

毎年恒例の子ども雛めぐりでは、今年初めて、子ども達がかぐやパンダと共に笠井邸



から照蓮寺までを練り歩きました。

赤い着物を着て参加したのは、矢原理沙ちゃん(田ノ浦)。「楽しかった。また来たい!」と、笑顔で感想を話してくれました。

また、市外から訪れた観光客のみなさんからは、

「着物を着て、昔ながらの町並みを歩くことはなかなかできないので嬉しい。」

「毎年来ています。何度来ても良いイベントですね。」

といった声が聞かれました。

今年も、春の訪れと共に、多くの人で賑わった雛めぐり。歴史を感じさせる雛人形に、みなさん、癒されたのではないのでしょうか。



3月15日、忠海西小
学校で、ふるさと納税
を活用した「竹原っこ
夢プロジェクト」が行
われました。

「忠海の歴史について調べたことをもとに、大型絵本を作成して発表したい」という6年生の夢を実現させるため、昨年12月からスタートした今回のプロジェクト。忠海の歴史上の人物について地域の人から聞き取りを行い、絵の指導をしてもらいながら、話の構成を考えて絵を描きました。

竹原っこ夢プロジェクト ～まちの歴史を 大きな絵本に～

て、小橋将大くんは、「忠海にはすごい人がいることや、地域の人への支えがあることを学びました。」

と、振り返ります。また、多くの児童から、「忠海を自慢に思う」、「陰からしっかり支えることの大切さを知った」という声が聞かれました。ふるさとの良さ、仲間の大切さを、改めて学ぶことができましたのではないのでしょうか。

ふるさと納税にご協力いただいたみなさん、ありがとうございます。

本格的なセットで映画撮影

2月12～19日、市内各地で、今年10月公開の映画「**潔く柔く**」の撮影が行われ、市内外から約100人のエキストラが参加しました。寒空の下、磯宮八幡神社には屋台が並び、浴衣姿や半袖の人々が夏祭りで賑う様子が見事に再現されました。



支えてくれた人に感謝 新たな一步を踏み出す

3月22日、市内小学校で、卒業式が行われました。中通小学校では、23人の児童が、堂々とした姿勢で、手作りの卒業証書を受け取りました。6年間で学んだ、様々な経験を生かして、中学校でもがんばってください。



認知症を予防して いつまでも自分らしく

3月23日、文化創造ホールで、認知症講演会が開催され、約200人の参加者が、広島県地域包括ケア推進センターの芳谷伸二さんの話に耳を傾けました。趣味や運動の大切さ、介護予防ラジオ体操など、「家庭でできる予防方法を実践したい」という声が多く聞かれました。



祝 30周年！楽しいイベント満載

3月24日、勤労青少年ホームで、るんるん祭が開催されました。30周年を迎えた今年、バザーやフードコーナー、作品展示のほか、シンガーソングライターの丸本莉子さんのライブが行われるなど、会場は盛りだくさんの内容で賑わいました。



陶芸家の技に感動

3月10日、たけはら美術館で、陶芸家今井政之さんによる「ろくろの実演」とアーティストトークが行われました。

ろくろの実演には、35人が参加。今井さんの指先の感覚で同じ厚みにする技や、瞬く間に作品を仕上げる様子を、参加者は真剣な表情で見つめていました。

その後行われたアーティストトークでは、展示作品を前に、今井さんが当時の思い出や創作技法を話し、参加者からは「素人でも分かりやすかった」といった感想が聞かれました。



竹原第2地区協働のまちづくりネットワークが設立！

3月26日、道の駅たけはらで、竹原第2地区協働のまちづくりネットワーク設立代議員総会が開催されました。

メンバーは、本町周辺の各自治会や地区社会福祉協議会、女性会や消防団など、様々な市民活動団体で構成され、昨年夏から本格的に意見交換会を重ねてきました。キャッチフレーズは、地域住民から募集し、「第2地区だよ！全員集合！」に決まりました。会長に就任した岩下和雄さんは、

「盆踊りなど、昔の祭りを復活させて、地域を盛り上げていきたい。また、自主防災マップの作成など、災害対策にも力を入れていきたい。」

と、今後の意気込みを語ってくれました。